

苗木について

園芸センターなどで購入できます。大手の種苗会社の通信販売も利用できます。実をつけるものは雌雄の確認を忘れずに。

植えつけについて

樹種によって植えつけ時期は異なるので注意します。植え方は下記を参考にしてください。

水ぎめ 根鉢の直径の1.5倍の植え穴を掘ります。深さは根鉢の高さよりやや深い位。穴底の中央に土を盛り、根鉢を入れます。6～7割の土を埋め戻しながら水を注ぎ、まわりの土と根鉢を密着させます。根鉢の上まで土を入れて、水が流れ出ないように環状に土手を作ります。揺れ止めの支柱を立て、たっぷり水やりをします。

生垣の仕立て方

整形刈りこみ垣 (全体を直方形の形に整然と刈りこむ)

自然風刈りこみ垣 (並べて植えた木を1本ごとに刈りこんだもので、樹形は円錐形、円筒形、球形など)

重層垣 (樹高の高い生垣と低い生垣を2段や3段に組み合わせたもの、または整形したもの同士、自然風刈りこみ同士、または整形と自然風とを組み合わせたもの)

他に**混ぜ垣** (複数の樹種で構成したもの)、**つる垣** (つる性の植物を材料にしたもの) や**花垣** (花時にとても美しい) などできます。



財団法人相模原市みどりの協会では新規に生垣を設置される方に奨励金を交付しています。交付には諸条件がありますので、生垣を作る前にみどりの協会までお問い合わせください。

庭木

園芸豆図鑑 Vol.15 Garden trees

参考文献

- 「園芸植物大事典」 小学館
- 「山溪カラー名鑑」 日本の樹木 山と溪谷社
- 「新樹種ガイドブック」 建設物価調査会
- 「植物用語事典」 清水建美著 八坂書房
- 「ガーデニング花木入門」 NHK出版
- 「コニファー」 柴田忠裕著 誠文堂新光社
- 「コニファーズブック」 柴田忠裕著 グリーン情報
- 「庭木・街の木」 岡部誠・堀越禎一解説 小学館
- 「木の名前」 岡部誠著 婦人生活社
- 「新・園芸クリニック4庭木・花木・家庭果樹」 NHK出版
- 「落葉樹の庭づくり」 岡田文夫著 農文協
- 「小庭向きの庭木整姿と手入れ」 中山草司著 大泉書店

監修

岡部誠(園芸研究家)

協力

神奈川県立相模原公園 グリーンハウス(表紙・見開写真)

発行

財団法人 相模原市みどりの協会

〒228-0828 神奈川県相模原市麻溝台2317-1 TEL042-777-2860

URL <http://www.sagamihara-green.or.jp/>

E-mail info@sagamihara-green.or.jp

庭木

Garden trees



身近な緑で生活に安らぎを。

緑に囲まれた町には安らぎがあります。窓を開けて外に目をやると、木々の芽吹きは春の訪れを知らせ、紅葉や落葉はやがて来る冬を教えてください。

奥行きのある大きな庭をもつことは難しくなりましたが、ちょっとしたスペースでも、工夫次第ですてきな庭が作れます。玄関へのアプローチなどの空間や、建物と道との間も大事な庭です。ブロックやフェンスのかわりに明るく色彩豊かな生垣をつくりませんか。昔から生垣は、防災や、目かくしなどたくさんの役割をはたしてきました。また今日では、住宅を美しく演出することにも一役買っています。住宅が洋風化するとともに、生垣の樹種に変化がおきてきました。緑一色ではなく、遠目に花と見まごうばかりの美しい葉をもつ木が増えました。また難しい刈り込みをしなくても樹形が美しいものもあります。華やかな花の咲くシャクナゲ、バラ、ムクゲ、美味しい実が付き紅葉も美しいブルーベリー、ハーブの仲間です。日々利用できるローズマリーやラベンダーなども生垣にすることができます。赤や黄色の明るくカラフルな葉、緑に白や黄の斑が入った葉を持つものも次々に作り出されています。一つの樹種だけで作った生垣もシンプルで素敵ですが、あなたのセンスで木を上手に組み合わせたり、花壇の縁取りのように低く刈り込んだり、ポイントだけ高く造形したり、形や色の変化を楽しんでみませんか。四季の草花を組み合わせると、そこはおしゃれな前庭に変わり、住んでいる人ももちろんのこと、道行く人の目も心も楽しませてくれます。

樹木の性質を知りましょう。

樹木は大きさ・性質によって分けることができます。最終樹高がだいたい15m以上の樹木を「高木」、3m以下の樹木を「低木」と呼んでいます。個々の葉の寿命は1年未満から数年です。年間を通し常に緑色の葉をつける常緑樹は、常緑広葉樹(アオキ・カナメモチなど)と常緑針葉樹(スギ・マツなど)に分けられます。落葉樹は冬にはすっかり葉を落としてしまう樹木のこと、落葉広葉樹(ウメ・モモなど)と落葉針葉樹(カラマツなど)に分けられます。常緑性と落葉性という性質は温度などの環境条件で違ってきます。広葉樹は幅の広い葉をもち、針葉樹は針状の細い葉をもつ木のことです。樹木を選ぶ際には樹木の持つ生まれた性質や植え場所の環境を確かめる必要があります。生垣に用いる樹種の条件は、枝葉が密に出ること、強い刈り込みに耐えよく芽吹くことや、葉・花・果実などが美しいことです。刈り込みに強いので集合住宅の玄関まわりやベランダでのコンテナ(容器)栽培に利用できるものもあります。



庭木

Garden trees

Conifer

コニファー類(Conifer)

コニファーとは針葉樹の総称だが、一般的には色彩に優れ、幼樹の時から自然樹形が美しく整った樹種・品種を指す。洋風の建物によく似合い、洒落た変化のある庭を造ることができる。

(葉色について)

黄緑色・青緑色・鮮緑色・濃緑色・黄色・灰緑色・灰青色・銀緑色などカラフルで、新芽時・夏・晩秋と葉色の変化を楽しめる。赤色がないので、ベニメギ等の赤葉植物や、赤い色の草花を植えるとポイントになる。



こんもり育つタイプ(球形・半球形・楕円形)



樹形は球形。葉の先は黄金色で、次第に緑になる。以前は「グロボーサオーレア」と呼ばれていた。樹高は1~1.5mで、年間10~15cm伸びる。日あたりのよいところで育てる。

ニオイヒバ 'ゴールデングローブ'
Thuja occidentalis 'Golden Glove'
ヒノキ科クロベ属



樹形は半球形。杉葉状の葉で橙色を帯びた黄色、冬は褐色になる。樹高は2~3mになり最初は半球形だが、その後芯が立ち円錐形になる。年間10~20cm伸びる。株が接すると蒸れやすいため、間隔をおいて植える。

ニオイヒバ 'ラインゴールド'
Thuja occidentalis 'Rheingold'
ヒノキ科クロベ属



樹形は長楕円形。鱗葉は黄金色の矮性品種。'オウゴンコノテガシワ'の流通名もある。

コノテガシワ 'オーレア ナナ'
Thuja orientalis 'Aurea nana'
ヒノキ科クロベ属



樹形は盛り上がるように横に張った半球形。針葉は灰青色で密生する。冬は紫茶色を帯びる。樹高は30~50cmで、直径1mくらいの矮性品種。枝は密生するが、年間10cm程度の伸びなので、狭いスペースに向いている。密植しないで、ひとつひとつの樹形を見せて間隔をあけて植える。

ニイタカビヤクシン 'ブルースター'
Juniperus squamata 'Blue Star'
ヒノキ科ネズ



サワラ
'フィリフェラ オーレア'
Chamaecyparis pisifera 'Filifera Aurea'
ヒノキ科ヒノキ属

樹形は広円錐形。糸状の葉は春から夏黄色があざやか、冬は橙色を帯びてきれいである。'オウゴンイトヒバ'とが'オウゴンヒヨクヒバ'とも呼ばれる。樹高は4~5mで、年間30~40cm伸びる。日あたりのよいところで育てると黄色が美しい。



コノテガシワ
'ローズダリス'
Thuja orientalis 'Rosedais'
ヒノキ科コノテガシワ属

樹形は卵形または長楕円形で、樹高は2m。短く柔かな針葉が密生しモコモコして愛らしい。新梢は黄緑色、その後灰色を帯びた緑色(赤紫色)になる。年間20~25cm伸びる。

まっすぐに育つタイプ(ロケット形・円錐形・広円錐形・円柱形)



ニオイヒバ
 ‘スマラグド’ (‘エメロウド’)
Thuja occidentalis ‘Smaragd’
 ヒノキ科クロベ属
 樹形は狭円錐形、鱗葉は光沢のある濃緑色。‘エメラルド’の名で普及していることが多い。強健な品種で最も普及しているものの一つである。樹高は3~5mになる。年間20~30cm伸びる。



ニオイヒバ
 ‘イエローリボン’
Thuja occidentalis ‘Yellow Ribbon’
 ヒノキ科クロベ属
 樹形はコンパクトに狭円錐形~柱状形。春の葉色はオレンジがかった黄金色で目立つ。



ニオイヒバ
 ‘グリーンコーン’
Thuja occidentalis ‘Green Cone’
 ヒノキ科ヒノキ属
 樹形は狭円錐形。鱗葉は春の新芽は黄金色、夏秋は明緑色、冬は褐色。生長がよく刈り込みに極めて強く、広く普及している。神奈川県で育成された品種で樹高は4~5mになる。年間40~50cm伸びる。生垣にする場合は80~100cmの間隔で植える。



コノテガシワ
 ‘エレガントイシマストリクタ’
Thuja orientalis ‘Elegantissima Stricta’
 ヒノキ科クロベ属
 樹形は狭円錐形。鱗葉は春の新芽は黄金色、夏秋は明緑色、冬は褐色。神奈川県で作られたもので、生長がよく刈り込みに極めて強いので広く普及している。樹高は5~6mになり、年間30~50cm伸びる。



フクゲンストウヒ
 ‘グロボーサコンパクト’
Picea pungens ‘Globosa compacta’
 マツ科トウヒ属
 生育の遅い矮性種で、樹形は半球形で分枝が旺盛。針葉は灰白色を帯びた青色でワックスにおおわれている。

はって育つタイプはヒノキ科ビャクシン属が多い。
 (注 ビャクシン属はナシ・カリン・ボケの大敵赤星病菌の中間宿主である。赤星病菌は秋から春までビャクシンに寄生し、その後胞子が飛散してナシなどにつき発病する。4月に雨が多いと胞子がたくさんできる。梨栽培農家が2km以内の場合は植栽を禁止する自治体があるくらいなので、冬の石灰硫黄合剤散布、春先の殺菌剤を散布で防除につとめること。)

はって育つタイプ(ほふく形・さかずき状形)



ハイネズ
 ‘ブルーパシフィック’
Juniperus conferta ‘Blue Pacific’
 ヒノキ科ネズ属
 針葉は青緑色で、葉裏は灰白色を帯びる。枝ははう力が強く、グラウンドカバーに使われることが多い。支柱に枝を誘引して枝を下垂させると、立ちあがった独特な雰囲気のある株になる。



コロラドビャクシン
 ‘ブルーヘブン’
Juniperus scopulorum ‘Blue Heaven’
 ヒノキ科ネズ属
 樹形は狭円錐形から円錐形になる。北米に分布し、鉛筆材として利用され、葉や枝に芳香がある。鱗葉は灰白色を帯びた緑青色で冬も変わらない。日あたりのよい肥沃な場所を好む。灰白緑青色系では最も普及した品種で樹高は4~5m、年間15~20cm伸びる。新梢時はワックスが付着しているためきれいだが、風雨により剥がれ落ちてしまう。時々刈り込んで樹形を整える。



アリゾナイトスギ
 ‘ブルーアイス’
Cupressus arizonica ‘Blue Ice’
 ヒノキ科ホソイトスギ属
 樹形は広円錐形。粗く生えた線状の鱗葉は銀白色から銀青色。樹高は8m程度で、年間30~50cm伸びる。雨でワックスがとれて、秋冬は少し観賞性が落ちる。



アリゾナイトスギ
 ‘サルフレア’
Cupressus arizonica ‘Sulfurea’
 ヒノキ科ホソイトスギ属
 樹形は広円錐形。粗く生えた線状の鱗葉は黄色または灰色を帯びた黄色。樹高は4~5mで、年間20~30cm伸びる。日陰ではきれいな黄色が出ない。



フクゲンストウヒ(コロラドトウヒ)
 ‘ホプシー’
Picea pungens ‘Hoopsii’
 マツ科トウヒ属
 樹形は広円錐形。針葉はワックスがのり、灰白色を帯びた青色で目立つ。Blue Spruce(ブルーのトウヒ)の代表的な人気品種。樹高は6~8mで年間20~30cm伸びる。芽つみをするときボリュームがでる。‘コロラドホプシー’の流通名もある。

育て方について

【植えつけ】

日あたりと風通しと水はけのよい場所を好む。苗の大きさではなく、10年20年先の大きさを考えて樹間を決める。(上記のコニファーは刈りこみに強い特徴をもつので大きさを調整できる)直立性のものを植えるときは、根が張るまで必ず支柱をする

【剪定】

冬に込み合った枝を間引き、2月中旬~3月に整姿する。必ず芽のある所でおこなう。コニファーの多くは金気を嫌い、葉を刈りこむと切り口が茶褐色になるが、この時期は新芽や枝が伸びてカバーしてくれる。その後伸びすぎた枝や新芽はこまめに手でつまむ。

【施肥】

毎年1~2月、芽が動き始める前に化成肥料を少なめに施す。

【水やり】

水分を要求する樹種が多いので、夏や冬の極端に雨の少ない時は水やりをする。

【その他】

大雪の予報が出たら、枝が裂けたり樹形が乱れないように、円錐形の場合はヒモで下からまきあげ、球状の場合は鉢巻をかけておく。幹が細い場合は支柱をする。



コニファーのフィトンチッド

野山や森林を散策する「森林浴」が人気だが、心地よさの一因は、森林木が出す「フィトンチッド」といわれている。とくに針葉樹から発散する「フィトンチッド」はストレスをやわらげ、身体や心をリフレッシュさせる。樹木は外敵からの攻撃や刺激を受けても逃げ出すことができないので、「フィトンチッド」揮発性物質を自分で作り出して発散する。

他の植物を攻撃する成長阻害作用、昆虫などに葉を食べられないための摂食阻害作用、殺菌作用などが知られている。日本では昔からヒノキの香りを尊重し、祝いの席では樽酒、樹酒が飲まれてきた。寿司屋の飯台はヒノキ、ネタが並んだケースにはサワラの葉が使われている。殺菌効果をねらった先人の知恵である。

なおヒノキ科のモンレーイトスギ ゴールドクレスト やローソクヒノキ アルミゴールド は地植えだと病気が多いので、鉢植えにしてなるべく雨にあてないで育てる。



ムベ(郁子)
Stauntonia hexaphylla
アケビ科ムベ属 常緑つる性木本
花期 4~5月
実熟期 10月
生長 速
耐刈り込み 強
適地 陽~半日陰



花は淡い黄色で紫色の筋が入る。雌雄同株。果実はアケビに似ているが、熟してもアケビのように開かない。霜が降りるまで実がついている。しっかりした竹垣やフェンスやアーチにからませて栽培する。上部に花をつけるので、毎年の剪定が欠かせない。果実は紫紅色に熟し、果肉は白く、甘く食用になる。つるは活け花材料に利用できる。



ナンテン(南天)
Nandina domestica
メギ科ナンテン属 常緑低木
花期 5~6月
実熟期 11~1月
生長 幹の下部から分枝 遅
耐刈り込み 普
適地 陽~陰



‘オタフクナンテン’

紅葉と冬赤く熟す実も魅力。名が「難を転ず」に通じる所から、縁起木として広く植えられ、お祝いの赤飯などに添えられる。黄白色の実をつけ、秋は黄葉する‘シロミナンテン’、淡紫色の実の‘フジナンテン’、節間の短い矮性の‘オタフクナンテン’など多くの種類がある。整枝、剪定はあまり必要としない。根切りなどで樹勢をおさえると実が付きやすい。‘オタフクナンテン’は陽地で無肥料栽培すると葉が赤くなる。



ヒラギナンテン(柗南天)
Mahonia japonica
メギ科ヒラギナンテン属 常緑低木
花期 3~4月
実熟期 6~7月
生長 株立ち状 普
適地 半日陰 乾燥嫌

小葉がヒラギの葉に、枝がナンテンに似ているので名づけられた。花の少ない冬に黄色の花穂をつける。花のすぐ下の葉芽から枝が伸びるので、花後すぐに剪定し、枝が密生している場合は間引く。芳香のあるマホニア(ヒラギナンテン属)チャリティー 1は小苗でも開花し、葉のノコギリ歯が鋭いため防犯も兼ねる。夏に果実が紫に熟す。日あたりでは冬に葉が紅葉する。



ロウバイ(蝟梅)
Chimonanthus praecox
ロウバイ科ロウバイ属 落葉低木
花期 12~2月
生長 遅
耐刈り込み 普
適地 陽~半日陰 乾燥を嫌う

中国原産。樹皮はなめらかで灰白。1月厳寒期に葉に先立って花を咲かせる。ロウバイの名の由来は花色が蜜蝋のような色と質感をもつこと、蝟月(旧暦12月)に咲くことなど諸説がある。上品な芳香のある黄色の花は透明感があって美しい。性質は強健で寒さに強い。枝が不規則に伸びるので、花後の2~3月に軽く剪定して整える。花芯は暗紫色、その他に花全体が黄色のソシンロウバイがあり、広く普及している。



カシワバアジサイ

‘アナベル’



アジサイ
カシワバアジサイ
Hydrangea quercifolia
‘アナベル’
H. arborescens ‘Annabelle’
ユキノシタ科アジサイ属 落葉低木
花期 6~8月
生長 速
耐刈り込み 強
適地 陽~半日陰 乾燥を嫌う

アジサイは品種が多い。花色の豊富な西洋アジサイは日本のアジサイがヨーロッパで育種改良されて里帰りしてきたもの。最近では北米原産のカシワバアジサイや、園芸種‘アナベル’が人気である。カシワバアジサイは柏の葉のような切れこみのある葉と、円錐形に咲く花が特徴で、秋には赤銅色に紅葉する。‘スノークイーン’、‘スノーフレーク’、‘ハーモニー’などの園芸種がある。‘アナベル’はテマリ形大輪の白い花で花期が長い。アジサイは11月頃花芽ができるので、花後、遅くとも8月上旬までに剪定する。開花した花の下、2~3節目のしっかりした芽の上で切る。開花を繰り返した枝や混み枝、古い枝は根元まで切り戻して全体の形を整える。



ベニバナトキワマンサク(紅花常盤満作)
Loropetalum chinense
マンサク科トキワマンサク属 落葉低木
花期 4~5月
生長 株立ち状 速
耐刈り込み 強
適地 陽

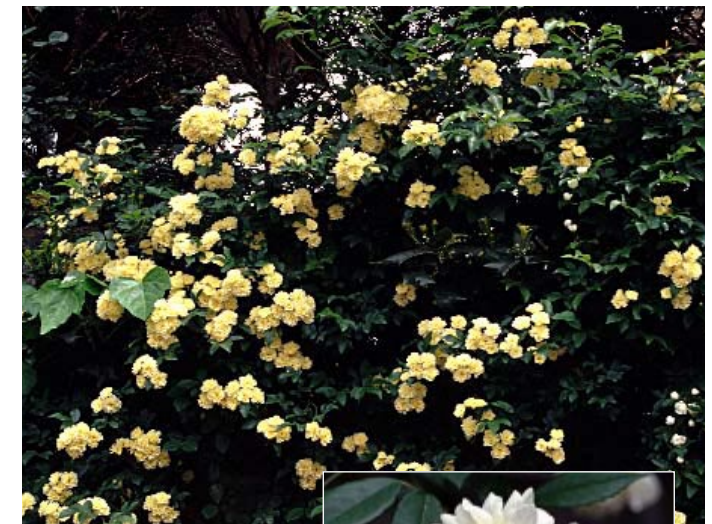
幹から元気な細い立ち枝がたくさん出て、濃桃色の花が咲く。小さい楕円形の葉は緑葉の他、紫色を帯びた紅葉がある。紅葉に黄色の斑が入ったファイリベニバナトキワマンサクもある。花時はとても華やかな生垣である。



ヒュウガミズキ(日向水木)
Corylopsis pauciflora
マンサク科サミズキ属 落葉低木
花期 3~4月
生長 遅
耐刈り込み 株立ち状 普
適地 陽 水はけのよいところ 乾燥を嫌う



早春の花木。葉に先立って、枝先や節から黄色の小花が7~8個穂状になって下垂して咲く。半日陰では花つきが悪くなる。近縁に花や葉がやや大きいトサミズキがある。剪定は花後4月。花芽は夏から秋にかけてできるので、12~2月に花芽に注意しながら、軽く刈り込み整姿する。株立ちし、枝が細いので低い生垣にもよい。



モッコウバラ(木香薔薇)
Rosa banksiae
バラ科バラ属 半つる性常緑低木
花期 5月
生長 つる性 速
耐刈り込み 強
適地 水はけのよい場所

中国原産。普通のバラと違って、葉は照り葉、枝は細く緑色。トゲがないので扱いやすい。アーチや生垣に利用できる。一季咲きで、小輪だが八重咲きで房状ににぎやかに咲く。花色は白、黄花種をキモッコウバラという。モッコウバラには芳香があるが、キモッコウバラには香りがない。直立させると花つきが悪いので立ち上げて枝垂れさせたり、斜め横に誘引する。樹勢が強いので施肥をしない。



ヤマブキ (山吹)

Kerria japonica

バラ科ヤマブキ属 落葉低木

花期 4~5月

生長 株立ち状 速

耐刈込み 強

適地 陽~半日陰 肥沃な湿潤地

枝葉はよく茂り、枝先に「山吹色」と呼ばれるあざやかな黄色の花が咲く。花後は地際から枝を間引いて、まとまりのある形に整える。一重咲き、八重咲き、菊咲きなどがあり、葉に白い斑が入るものもある。冬の間に、枯れ枝や混み枝を切る。花つきが悪くなって樹姿が乱れてきたら、思い切って株元から剪定する。



‘ソーンフリー’

ブラックベリー

Rubus allegheniensis

バラ科キイチゴ属

落葉つる性低木

花期 4月

実熟期 7~8月

生長 速

耐剪定 強

適地 陽 乾燥を嫌う



ラズベリーと同じキイチゴの仲間、果実は手作りケーキの素材として人気があり、生食やジャムやドライで利用。生育が旺盛で実つきがよいので、つるをフェンスに誘引して育てる。一度実のついた枝は収穫後株元から剪定する。堆肥や腐葉土をすきこんで植え、2月の鶏糞と9月の化成肥料の施肥をする。とげなしで黒実の ‘ソーンフリー’、赤実の ‘ボイセンベリー’ などがある。



ユキヤナギ (雪柳 別名小米花)

Spiraea thunbergii

バラ科シモツケ属 落葉低木

花期 3~4月

生長 株立ち状 速

耐刈込み 普

適地 陽~半日陰

葉が柳に似ていて白い小花が枝をうめ尽くして咲く。枝は大きく弧を描く。秋の紅葉も美しい。刈り込み剪定は花後に大きくなりすぎた枝や古枝や混み枝を間引く。春から伸びた新梢に秋の初めに花芽がつく。最近では紅花品種もあり、葉の黄色が強い品種もある。



レッドロビン

(セイウベニカナメモチ

‘レッドロビン 西洋紅要麟)

Photinia×fraseri ‘Red Robin’

バラ科カナメモチ属 常緑小高木

花期 5~6月

生長 速

耐刈込み 強

適地 陽

生垣樹種としての人気が高い。日本原産のベニカナメモチと中国南部や台湾に自生するオオカナメモチの種間交雑種でニュージーランドで育成、神奈川県フラワーセンターが最初に導入し普及したものである。枝・葉ともにカナメモチより大きく、枝も太くてよく伸び、強い刈り込みにもよく耐える。新芽の紅色が特徴。日陰では新芽が赤くならない。花は白 実には秋に赤く熟す。5~6月と9月に刈り込む。



ハナモモ 照手姫 (花桃)

Prunus persica ‘Terute-hime’

バラ科サクラ属 落葉小高木

花期 3~4月

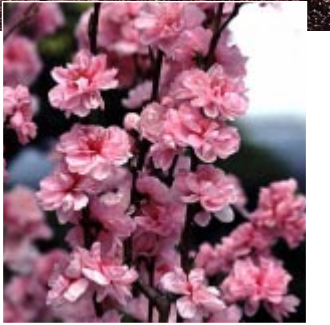
実熟期 7~8月

生長 速

耐刈込み 強

適地 陽

モモはひなまつりの節句花として昔から親しまれている。ハナモモは果樹のモモと同じものだが、花を観賞するグループのことをいう。花は一重咲き、八重咲き、源平咲きがある。照手シリーズは、あまり横に広がらないで、ほうきを逆さにしたように伸びる「ほうき性」の品種で相模原市横山で育成された。特に ‘照手姫’ は花つきがよく、剪定に強く、コンパクトで育てやすい。狭い庭でも利用できる。また枝垂れ性で果実が食べられる ‘照手水蜜’ も人気が高い。整姿剪定は冬期に、間引きや切り戻しは花後すぐに行う。



シモツケ (下野)

Spiraea japonica

バラ科シモツケ属 落葉低木

花期 5~8月

生長 株立ち状 速

耐刈込み 強

適地 陽

枝先に濃桃色の5弁の小花が多数かたまると咲く。花弁より長いおしべが特徴で、綿毛をかぶったようにみえる。白やピンクの咲き分けや濃い紅色の花が咲く園芸種もある。新芽がオレンジ色でその後黄色の葉になる園芸種もある。一定の温度があると、切り戻せば何度も開花する。日陰では花つき花色が悪くなる。



コデマリ 小手鞆、小手毬 別名鈴掛)

Spiraea cantoniensis

バラ科シモツケ属 落葉低木

花期 4~5月

生長 株立ち状 速

耐刈込み 強

適地 陽

長く伸びた枝の上面に、テマリ状の白い花が並んで咲く。花の重みで弓なりに枝垂れる様子が美しい。花芽分化は10月以降。刈り込み剪定は花後すぐに。花つきをよくするためには、4~5年毎に、3月頃に地際で古枝を切り新しい枝を出す。花は一重だけでなく八重咲きもあり黄色葉の系統もでている。



ジュンベリー

(アメリカザイフリボク 亜米利加采振木)

Amelanchier canadensis

バラ科ザイフリボク属 落葉低木

花期 5月

実熟期 7月

生長 遅

耐剪定 強

適地 陽

若葉が白っぽい緑なので、庭を明るくする。サクラの花を小さくしたような純白の花をたくさんつけ、初夏にブルーベリーに似た実が赤紫色から黒熟する。花つきがよく実つきもよい。1本でもよく実をつける。実は生食でき、ジャムや果実酒に利用できる。庭では株立ち仕立てがよい。紅葉も美しい。





ナツカン (夏蜜柑)
Citrus natsudaidai
 ミカン科ミカン属 常緑高木
花期 5月 **実熟期** 翌年の3~4月
生長 速 **耐刈り込み** 普 **適地** 南向きの陽あたりのよいところ

果実が大きく、実のついている時期が長いので、どっしりした存在感がある。酸味が強くない。甘夏(川野ナツダイダイ)の苗木が売られている。樹勢が強くて実がつくので、つけすぎないように摘果する。50~60枚の葉に1つがめやすくなる。花芽は1年枝につくので、剪定は3月中におこなう。収穫後は混み枝を間引き樹形を整える。熟した実はオレンジ色で400~500gになる。果皮はマーマレードに利用できる。



キンカン (金柑)
Fortunella japonica
 ミカン科キンカン属 常緑低木
花期 7月~秋2~3回 **実熟期** 2月
生長 遅 **耐刈り込み** 普 **適地** 陽

中国原産で江戸時代に渡来。初夏から2~3回白い花が咲く。果実は2~3センチの球形で、果肉はすっぱいが、橙黄色の果皮は甘味と香りがあり生食ができ、甘露煮でも楽しめる。一般に流通している「ニンボウキンカン」は甘い。キンカンとミカンの雑種と考えられている大きな実の「オオミキンカン」は生食ではなく、マーマレードに利用される。



「ゴールデンジェム」

イヌツゲ (犬黄楊)
Ilex crenata
 モチノキ科モチノキ属
 常緑広葉小高木 雌雄異株
花期 5~6月
実熟期 10月
生長 幹直立し枝は横に広がり円錐形 速
耐刈り込み 強
適地 陽



2本の苗を使用した、簡単な「鳥」のトピアリー

昔から生垣によく使われている。黄緑色の小花が咲き、雌木には10月頃球形で黒紫色の果実が熟す。小枝が密生するので、円柱や玉垣、トピアリーなど和風・洋風いろいろの形に仕立てられる。6月上旬に剪定し、次に9月中旬に夏に伸びた枝を整える。春の新芽が黄金色の「キンメツゲ」や黄色の葉のきれいな「ゴールデンジェム」などの園芸種もある。イヌツゲは相模原の「郷土樹種」である。



ヤボンノキ
Ilex vomitoria
 モチノキ科モチノキ属 常緑低木 雌雄異株
花期 5~6月
実熟期 11月
生長 速
耐刈り込み 強
適地 陽

米国南東部やメキシコ原産。イヌツゲに近い種類。丈夫で刈り込みに強い。栽培はイヌツゲと同じ。イヌツゲと異なり、たくさんの赤い実をつける。葉にカフェインをふくみ、アメリカのネイティブインディアンはお茶として飲用するという。園芸種に雌木で枝垂れ性の「ペンデュラ」、雄木で直立性の「ウイルフレミング」がある。



ニシキギ (錦木)
Euonymus alatus
 ニシキギ科ニシキギ属 落葉低木 雌雄異株
花期 5~6月
実熟期 10月
生長 株立ち状 普
耐刈り込み 強
適地 陽~半日陰 水はけのよい肥沃地



秋の美しい紅葉を錦に例えられる。樹皮ははじめ緑色で、若い枝にはコルク質の翼(ヨク)という薄い板がつく。これは3年以上たつと落ちてしまう。移植に強く、枝葉が密で生垣に利用できる。小さな黄色い花は2~3個ずつ咲き、果実は10月に暗紅色に熟し、赤い皮に包まれた黒い種をのぞかせる。落葉期に混み枝や伸びすぎた枝を切り詰める。



「日の丸」

ムクゲ (木槿、ハチス)
Hibiscus syriacus
 アオイ科フヨウ属 落葉低木
花期 7~9月
生長 幹も枝も上に伸び紡錘形 速
耐刈り込み 強
適地 陽 風とおしのよい肥沃地



「鳥取花笠」

韓国の国花で「無窮花ムクゲファ」という。中国名は「モクキン」。一日花だが、花がらつみと肥料と水分が十分あると次々に花芽ができて花の期間が長い。スタンダード仕立てや寄せ植えや生垣にも向く。園芸品種は多く、一重咲き、半八重咲き、八重咲きがあり、花弁は細いものから、バラや菊のようにあでやかなものがある。さし木も簡単。



オウゴンマサキ (黄金正木)
Euonymus japonicus
 ニシキギ科ニシキギ属 常緑低木
花期 6~7月
実熟期 10~11月
生長 株立ち状 速
耐刈り込み 強
適地 陽~半日陰



マサキは刈り込みに強く、昔から生垣に使われていた樹種である。斑入り種が多く、「キンマサキ」は黄色の中斑が入り、「ギンマサキ」は葉の緑に白い覆輪が入る。最近人気の「オウゴンマサキ」の新芽は光沢のあるきれいなレモンイエローで、その後緑色になる。



ヒメシャラの寄せ株づくり

ナツツバキと**ヒメシャラ**
 (夏椿と姫沙羅)
 ナツツバキ *Stewartia pseudo-camellia*
 ヒメシャラ *Stewartia monadelphica*
 ツバキ科ナツツバキ属 落葉高木
花期 6~7月
生長 速
耐刈り込み 強
適地 陽



ナツツバキ

ナツツバキは樹勢が強く、幹太りが早く枝も粗いが、ヒメシャラは枝が細く密になる。いずれも白い5弁花で秋の紅葉、幹肌も美しい。ナツツバキの花は直径5~7cm、幹は黒っぽい赤褐色。ヒメシャラの花は小さくて直径2cm、幹は淡い赤褐色である。家庭では株立ちに仕立てる。夏の乾燥に弱いので適宜水やりをする。剪定は自然樹形を損なわないように軽く間引く程度にする。



サカキ(榊または賢木)
Cleyera japonica
ツバキ科サカキ属 常緑低木
花期 6~7月
実熟期 11月
生長 速
耐刈込み 強
適地 半日陰 やや湿った肥沃な土

サカキは昔から神聖な木として扱われ、神社では神前に枝を玉串として供える。葉のつけねに白い15弁の小さな花が咲き、秋黒い実が熟す。フリリサカキはサカキの地味なイメージと違って、緑の葉に黄色い斑の明るい色彩をもつ。刈り込みに強く、丈夫なのでほとんど手がかからない。日陰でもよく育つので、北側の生垣に利用できる。斑入り園芸品種にトリカラーがある。



ヒペリクム
Hypericum spp.
オトギリソウ科オトギリソウ属 半常緑低木
花期 6~7月
生長 株立ち状 速
耐刈込み 強
適地 陽~半日陰 湿潤地

アーチ状の枝から伸びた新梢の先に黄色の花をつける。2月に剪定しても、花芽は新梢の先につくので、その年に花は咲く。株が大きくなりすぎたら、株元20cmくらい上で切る。カップ状の花でおしべが少し短いキンシバイ、中国原産の淡黄色で花弁の間に隙間があるビヨウヤナギ(美容柳)、ブルガリアヤトルコ原産の丈が低く大きい花が咲くヒペリクム・カリシナム、濃黄色の大きな花が目立つヒペリクム・ヒドコート などがあ



シャクナゲ 太陽 (石楠花)
Rhododendron 'Taiyo'
ツツジ科ツツジ属 常緑低木
花期 4月下旬
生長 株立ち状 速
耐刈込み 強
適地 陽

シャクナゲは一般的に冷涼な気候、半日陰地を好むが、'太陽'は神奈川県内で作出された耐暑性品種。幹太りがよく下枝も枯れ上らず、カシの木のように大きく育つ。濃桃色の整った花房を枝先にたくさんつける。実をつけさせないように花がらはかならずつみとる。大きくなりすぎた場合は花後に強い剪定をすることができる。



アメリカワナンテン レインボー'
(垂米利加岩南天 別名セイウワナンテン)
Leucothoe 'Rainbow'
ツツジ科ワナンテン属 常緑低木
花期 4~5月
生長 株立ち状 中
耐刈込み 強
適地 陽~半陰

ワナンテンは日本原産だがアメリカワナンテンは北米原産。花は白くつぼ形で目立たないが、葉の色彩が楽しめる。'レインボー'は葉に黄、白、薄紅などの斑が入るので人気がある。寒さにあたると、葉は赤褐色になる。丈夫で刈り込みに強いので植え込みに使われる。庭植えだけでなく鉢植えとしても出回っている。



サルスベリ 猿滑、百日紅 別名ヒヤクシソウ)
Lagerstroemia spp.
ミハギ科サルスベリ属 落葉高木(矮性もある)
花期 7~10月 生長 速
耐剪定 強 適地 陽 肥沃な適湿潤地

夏を代表する花木。7~9月たくさんのピンクの花を咲かせる。薄い花弁には縮緬じわがある。樹皮はなめらかで名前の由来である。春から伸びる新梢の先に花芽がつくので、2月頃に前年枝を付け根から切り取り、新梢を元気に伸ばす。花色は他に赤、白、薄紫色、紫紅色など。矮性種はピンクの花の 'サマー&サマー'、薄紫の 'パープル クイーン' 等がある。新しい品種にウドソコ病に強い 'ディア ルージュ'、'ディア パープル'、'ディア ウィーピング' 等がある。



アオキ (青木)
Aucuba japonica
ミズキ科アオキ属 常緑低木 雌雄異株
花期 3~5月
実熟期 12~4月
生長 株立ち状 速
耐刈込み 強
適地 半日陰 適湿地

つやのある葉と冬につぶらな赤い実が特徴。日本では地味な木の印象があるが、欧米では日陰に強いので木の下に植えたり、鉢植えにして北向きの窓辺に置いたり、葉の斑が美しい観葉植物として人気である。斑入り葉には多くのパリエーションがある。赤い実は雌木だけにつく。日なたに植えると、葉やけをおこしやすい。剪定は3~4月に伸びすぎた枝、混み枝を間引いて樹形を整える。



アセビ スプリング ベル'
(馬酔木 別名アシビ、アセボ)
Pieris 'Spring bell'
ツツジ科アセビ属 常緑低木
花期 2~4月
生長 幹直立後株立ち状 遅
耐刈込み 普
適地 陽~半日陰

アセビはつぼ形の白い花を多数穂状につけ下向きに咲く。園芸種の一つ 'スプリング ベル' はフラワーセンター大船植物園で育成されたリュウキュウアセビとアセビとの交雑種で、花が大きく鐘形(ベル形)で淡桃色。新芽が鮮やかな赤色。花が咲き終わる次第施肥をおこない、花がらつみをかねて切り戻すと、再び赤い新芽が楽しめる。アセビの花芽は今年枝の充実した枝先に作られて、翌春に開花するのだが、切り戻しをす



ドウダンツツジ (満天星、灯台躑躅)
Enkianthus perulatus
ツツジ科ドウダンツツジ属 落葉低木
花期 4~5月
生長 幹の下部から分枝 遅
耐刈込み 強
適地 陽~半陰

春は枝先にスズランに似た白い小さな花が咲き、秋は紅葉が美しい。花芽は夏にできるので、花を楽しみたい場合は夏以後の剪定をしない。刈り込みで樹形を整え、生垣に使われることが多い。その場合は花後に剪定する。樹高を低くしたい場合は、太い枝や幹の部分まで切り戻す。1~2年で細枝が密生する。



ブルーベリー
Vaccinium corymbosum
 ツツジ科スノキ属 落葉低木
花期 4月
実熟期 6~8月
生長 株立ち状 速
耐刈込み 強



適地 陽~半日陰 湿った酸性土
 植え場所にはピートモス PH未調整のもの と堆肥をすきこんでおく。

アメリカで野生種から改良された果樹。つぼ形の白い花も秋の紅葉も美しい。果実は赤紫から青に徐々に色づき、生食やジャムで楽しめる。ハイブッシュ系は高冷地向き。ラビットアイ系 ウンダード、'ティフブルー'、'ブルージェム'などは関東以西に向く。花の咲く時期があう、同じ系統の他品種を混植する。樹勢がつくと株元から勢いのよい新梢が飛び出す。落葉後に先端を切り詰めると、短枝が多く発生、花芽をつける。枝は3年くらいで更新していく。



トウネズミモチ 'トリカラー' (唐鼠糞)
Ligustrum lucidum 'Tricolor'
 モクセイ科イボタノキ属 常緑小高木
花期 6~7月
実熟期 11月
生長 速
耐刈込み 強
適地 陽~半日陰

中国原産。枝先に小さな白い花を数多く咲かせ、果実は黒紫色に熟す。刈り込みに強く丈夫である。ネズミモチに比べて葉や花や実が大型である。果実を乾燥したものを漢方では強壮薬として使っている。園芸種 'トリカラー' の葉は黄色の覆輪で、新梢の先端が紅色で、生垣樹種として人気である。



ラベンダー
Lavandula spp.
 シソ科ラヴァンデラ属 常緑低木
花期 4~7月
生長 株立ち状 中
耐刈込み 強
適地 陽 酸性土壌を嫌う



地中海沿岸原産のハーブ。精油成分には鎮静効果があり、香料や入浴剤など用途が広い。梅雨時や梅雨明け後の高温多湿を苦手とするので、庭植えには耐暑性、耐病性のある「ラバンデン系」がよい。2~3年で株が大きくなり、花穂も花茎も長いので用途が広い。ラベンダースティック、リース、ポプリなどで楽しめる。'スーパーセピリアンブルー'、'グロツソ'、'プロバンス'などの園芸種がある。収穫時に花茎を脇芽のすぐ上で剪定、秋から冬にかけては全体の3分の1程度の強剪定をする。



ローズマリー
Rosmarinus spp.
 シソ科ロスマリヌス属 常緑低木
花期 3~5月 冬から春にも咲く
生長 株立ち状 速
耐刈込み 強
適地 陽 乾燥したアルカリ性の土壌

細い線形の葉の脇に白、ピンク、淡青色の小さい花がつく地中海沿岸原産のハーブ。這(は)性のもの、立ち性のもの、両者の中間タイプがある。分枝が旺盛のため、立ち性のタイプは密度の高い洒落た生垣になる。肉と相性のよいハーブで、葉を肉の臭い消しやポテの風味づけ、精油は殺菌消毒力が強く、化粧水、浴剤、リンスに利用できる。梅雨前に枯れ枝等を剪定すると、わき芽が伸びて枝数がふえる。



レンギョウ 連翹)
Forsythia spp.
 モクセイ科レンギョウ属 落葉低木
花期 3~4月
生長 株立ち状 速
耐刈込み 強
適地 陽、風とおし



早春、葉が出る前に、前年できた枝に黄色の小花が鈴なりに咲く。300年前に渡来した木立ち性の中国原産のレンギョウ、幹も枝も湾曲するチョウセンレンギョウ、日本で最も多く栽培されている直立するシナレンギョウなどがある。その他にこれらの交雑園芸種も多く普及している。レンギョウは枝が密生するので生垣に向く。直立するタイプは下の枝を切ってスタンダード仕立てもできる。花後から5月までに枝を刈り込み、落葉期は花芽を確かめながら剪定する。



ブッドレア(フサフジツツギ 房藤空木)
Buddleja davidii
 フジツツギ科フジツツギ属 落葉低木
花期 5~10月
生長 株立ち状 速
耐刈込み 強
適地 陽

新梢の先に長さ10~20cm近くの花穂が咲く。甘い香りで蝶を呼ぶ蜜源植物。英名はバタフライブッシュ。紫、薄紫、ピンク、白、紅など花色も豊富。毎年2月ごろ切り戻すと、たくさんの枝が出て株立ち状にひろがる。コンパクトに育てるには、その後10~20cm伸びた頃に、また強く伸びてきた枝先を切り戻す。



コムラサキ(小紫)
Calliandra dichotoma
 クマツヅラ科ムラサキシキブ属 落葉低木
花期 6~9月
実観賞期 9~11月
生長 株立ち状 速
耐刈込み やや強
適地 陽 水分の豊富な肥沃地



学名は美しい実の意味。初夏に芳香のある淡紫色の小さな花が多数咲き、9月から11月まで細い枝に紫の果実が多数つく。ムラサキシキブは実のつき方がまばらで、一般には小型で実つきの良いコムラサキが普及している。コムラサキは薄日があれば育つほど丈夫である。実が白色に熟す園芸種 シロキシキブ もある。花芽は春から伸びた枝につくので、落葉期に剪定をおこなう。



アベリア
 (ハナソハクバネウツギ 花園衝羽根空木)
Abelia x grandiflora
 スイカズラ科ツバネウツギ属
 常緑~半落葉低木
花期 6~11月
生長 株立ち状 速
耐刈込み 強



丈夫で地際から株立ち状に枝が伸びる。新梢の先に咲く甘い香りの鐘形の花は、春から秋まで咲き続ける。関東地方においては常緑で、剪定に強いので生垣に向く。花色は光沢のある白やピンクで、最近では紅色の花が咲く園芸種もある。葉色の基本は緑色だが、覆輪や斑入りの黄色系もある。花を多く咲かせるには、3~4月に混み枝を間引き、枝に充分日をあて、施肥を十分にします。